

支援・応援で 成長してきた動物園

2016年3月から大森山動物園は、株式会社秋田銀行がネーミングライツ・パートナーとなり「あきぎんオモリンの森」の愛称が付けられています。同行から提供されたパートナー料収入はスタッフの展示環境改善アイデアの実現に有効に活用されています。動物園をパートナーに選んでいただいた理由は、動物園の入園者数が近年27~28万人と安定し、なによりも家族連れを中心に市民県民から愛され続けていることかもしれません。



ネーミングライツ看板除幕式

このような支援とは別に、大森山動物園は多くの市民や企業から支援、応援をいただきながら成長してきました。

その一つがボランティア活動です。50年の歴史の中、参加の動きが出てきたのは開園30年前後でした。義足のキリン「たいよう」が話題になり、チンパンジーの森や王者の森が完成し動物園のイメージが大きく変わり始めた頃でした。動物園を楽しみながら何かの形で関わってみたいと思う人が現れたのです。



ボランティアガイドのみなさん(制作を手伝った50周年記念モニュメントの前で)

動物園のガイドをしたいと思う人たちは、2002年にボランティアガイド「たいようの会」を発足させ、花壇づくりが好きな人たちは「MYZOOガーテナー」として園内花壇の管理をしていただいています。どちらも会員は30名弱のグルー

プですが、熱心に園内活動を続けてくれ、来園者から喜ばれています。



MYZOOガーテナーの活動の様子

こうした園内での支援とは違った形で動物園を応援する団体も登場しました。2011年の東日本大震災の年に発足した「大森山動物園応援会」です。発端は2007年の「地方(秋田)の動物園を考える」シンポジウムで、秋田市は2009年に市民参加型の大森山動物園再整備構想策定委員会を設置、その後役目を終えた委員会メンバーが牽引役になり企業人、教育者、大学教員などと市民と一緒に動物園づくりを応援しようと結成されました。開園40周年の時は公園でのジャズフェスタ開催や園内へのアート作品設置支援などのほか、飼料用のリンゴ拾いなど様々な応援を続けています。

動物園への飼料の支援もありがたいものです。こうした支援が多くなってきたのも開園30周年の頃からでした。市内製パン会社、食品会社、果樹園、また個人の方々から支援をいただいています。入園ゲート近くにお名前の掲示をさせていただいていますが、その輪が少しずつ広がっています。

こうした飼料の支援とは別に、秋田中央塗装業組合や日本塗装工業会秋田県支部のみなさまの30年にも及び園内施設の塗装ボランティアも施設の維持管理のうえで本当にありがたいものです。

様々な支援、応援に対し感謝の思いを表しつつ、支援は動物園への期待の大きさであることを意識し、それに応える努力を忘れてはいけなと感じています。



応援会会員のみなさんでリンゴ拾い